

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当ホームの運営規定の中に「地域住民との交流を深め、地域に開かれた事業所として、共に支えあう共同生活援助事業所を目指す」とあるように、地域に根付いた事業所であることを目標としている。ただ、前回の外部評価で、掲示物の中に地域という文字が記載されていないと指摘を受けたため、木の掲示物を塗りなおし、「地域住民との交流の下で」という言葉を加え書き直しをした。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営理念は、職員の目にとまるところに掲げている。また、ミーティングでも理念の唱和をみんなで言い、意識付けをすようにしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には、入居時や随時、ホームの理念についての説明をしており、気軽に来所していただける雰囲気作りに努めている。また、地域との交流の内容などを、ホームだよりも載せている。運営推進会議では、地域住民の方にも参加してもらっており、地域の方にグループホームの事を知ってもらう機会作りに努めている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>運営推進会議では、地域の方に出席してもらっている。また、地域のボランティアの方によるイベントを企画・実施してもらったり、食材も近隣の店から購入したりと、地域の人と関わりをもつようにしている。また、周囲には畑が多いことから、いろんな食材のおすそわけを頂いたりすることもある。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の行事があれば、随時参加するように心がけている。また、地域の「区」との交流会をホームでするなどもしている。(おやき作りなど)また、地域の中学生在がホームに来所し、職場体験を通じて、利用者とのコミュニケーションを図る機会も設けている。</p>	

グループホーム波田の家(新宅)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域では、要介護の方だけではなく、要支援状態にある方もいることから、介護予防の指定をとり、要支援2の方も入所できるよう配慮した。また、町会議員でもある理事長は、町の行事にも出席する機会が多く、随時グループホームでのことを話し、事業所での成果を地域に伝えている。また、中学生の職場体験の場として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を通じて指摘された点は、職員と話す機会を持っている。評価で見出された課題については、「改善計画」を立てて見直しを行ってきた。自己評価は全員で点検し、話し合う機会を設けた。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を通じて、前年度の外部評価の内容の報告会を実施した。参加者は役場関係や地域住民、利用者の家族も参加し、報告会・意見交換を行った。また、都合で参加できない家族や地域住民に対しては、評価内容の配布(またはWAMNETでの確認をしてもらう等)を行い、全員が内容を把握していただけるよう取り組んだ。今回はこの点が十分にできていなかったため、かなり前進したと言える。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	理事長は町会議員でもあるので、市町村と接する機会が多い。それ以外でも、ホームでサービスを提供する上での具体的な相談や意見交換を密に行っており、サービスの質の向上が図れるように努めている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や地域権利擁護事業については、重要事項説明書にも記載していることから、あらゆる媒体を通じて情報収集に努め、また、研修会にも参加し、理解を深めるようにしている。これらの内容は、職員会議でも話し、職員にも知ってもらうよう配慮している。実際、地域権利擁護事業を利用されている方もいるので、今後も一層知識の習得に努めていきたい。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束を行ってはいないが、常に注意を払っている。高齢者虐待防止関連法については、職員間のミーティングでも話し合いを行っており、「行わないこと」を職員間の共通認識としている。		

グループホーム波田の家(新宅)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		

グループホーム波田の家(新宅)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の病院受診や、ホームの行事等がある時には、職員を通常より多く配置し、臨機応変に対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員のほとんどは地元の方なので、職員が利用者やその家族と顔見知りの場合も多く、コミュニケーションが図りやすい。また、職員の離職や異動を最小限にするためにも、理事長や管理者は相談しやすい雰囲気作りに努めており、利用者にとって、馴染みのある職員が継続して支えられる体制となっている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県や市町村等からの研修の案内があれば、積極的に参加してもらっている。また、介護センターの研修に関しても、受講資格を満たす職員に対し、積極的に参加してもらっている。研修を終えた職員には研修報告書を記載してもらっており、全職員が閲覧できるようにしている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営会議では、他のグループホームの職員との交流をもち、学んだことをホーム運営に反映させている。また、研修を通じて、他のグループホームの職員と情報交換の機会を持ったり、他施設実習にも参加したりして、学んだことをホームの職員間で共有しながら、サービスの向上に役立てられるよう努めている。また県外のグループホームにも積極的に訪問し、学びを深めるようにしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>理事長は常にホームに来ており、オープンで話しやすい雰囲気を持っているため、職員は些細なことでも理事長に相談している。問題点があれば、早急に解決することを理事長のモットーとしているため、職員も安心して勤務している。</p>		

グループホーム波田の家(新宅)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理事長や管理者は、現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力や成果について把握するよう努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に、事前に本人から、状況を把握するよう努めている。また、苦しんでいる内容や困っていることがあれば、解決に向けての話し合いを行い、できるだけ不安を軽減できるように配慮している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に、事前に家族と話し合いの機会を持ち、家族の思い・不安点など、家族の状況を把握するようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは、まず利用者と本人のニーズを把握し、優先できるよう配慮している。また、他のサービスが必要な場合は、ホームが持ちうるネットワークを利用したり、また、市町村とも連携をとりながら、その時必要なサービスが受けられるように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は不安になることが多い。多くの人は事前にホームに見学に来ることが多い。また、こちらから、本人のいる所に訪問したりして、徐々に顔なじみになっていけるように努めている。また、「おためし入居」という制度も設けており、入居前に馴染めるかどうか考える期間も設定している。(実際にまだ実施したことはないが)		

グループホーム波田の家(新宅)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

グループホーム波田の家(新宅)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、利用者や家族の方が気軽に来所できる雰囲気作りに努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでは、1対1で話ができる時間も多いため、随時利用者の要望を聞くよう心がけている。また、「本人の視点」に立って、一人ひとりの思いや意向に沿った介護ができるよう心がけている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から利用者やその家族から、利用者の情報を収集するようにしている。その情報は利用者が入居する前から職員間でも共通認識できているようにしており、入居後は(その情報を)介護を行う上での参考にしてている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活歴などを職員は把握した上で、入居後の一人ひとりの生活リズムも重ねてみながら、総合的に利用者の全体像を把握している。その中で、何ができて・できないのかも把握し、本人の有する能力を最大限に発揮できるような援助ができることを目標としている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からのケアに対する要望を聞き、また、ケアに関わる職員からも意見を聞き、「利用者の視点に立った介護計画」を作成するようにしている。(アセスメントも含め、職員全員で意見交換やモニタリングなど、カンファレンスを通じて行っている)		

グループホーム波田の家(新宅)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者とその家族が要望を気軽に話せる雰囲気作りに心がけており、その都度、臨機応変に対応するようにしている。また、ホームには看護師を配置し「医療連携体制加算」の指定も受けており、利用者が安心して暮らせるようサポートしている。その他、外出への支援や外泊へ配慮なども行っている。</p>	<p>多機能性という意味で、デイサービスやショートステイ等に関して、今後検討していく必要がある。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		<p>地域の保健師さんに来てもらい、運動指導を受けたり、病院への診察が難しい利用者に対して、主治医に訪問診療をしてもらうなど、臨機応変な対応に心がけている。</p>

グループホーム波田の家(新宅)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進介護では、地域包括センターの職員にも出席してもらっており、協力関係の強化につなげている。また、権利擁護を通じて社協と契約している利用者もあり、金銭面・その他を通じて連携を取りながら利用者に対するサービスを行っている。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入居前からかかっていた病院がある場合、本人・家族と相談の上、可能な限り継続して、かかりつけ医で治療が受けられるよう配慮している。(家族の方の協力のもと)また、その時々利用者の状態の変化に応じて、家族と相談のもと病院を変えるなどの対応もしている。また、通院が困難な利用者の場合、主治医に訪問診療を依頼したりもしている。家族対応で受診している場合は、日頃の利用者の状態等の情報提供もしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師の下で治療を受けられている利用者も多い。その時々利用者の変化に応じて、介護の方針などの相談を気軽にできる認知症専門医があり、日頃から相談にのってもらっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームには職員として看護師を配置しており、日頃から利用者とのコミュニケーションを図り、健康管理を行っている。また、職員とも密に連携・情報交換を行っており(24時間気軽に看護師と相談できる体制になっている)利用者の変化の早期発見・早期対応に努めている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、随時、病院の医師・看護師・ケースワーカー・理学療法士等と話す機会を設け、今後の退院の見通しや退院後の対応等話し合いを行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期にある利用者に対しては、できるだけ早い時期から、本人・家族とみとりの方針についての話し合いを行っている。また、主治医にも、本人・家族の意向を伝え、いざという時の対応の仕方(連絡方法も含む)についての話し合いを行っている。これらみとりの方針は全ての職員が共通認識のもとで介護を行うようにしている。		

グループホーム波田の家(新宅)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

グループホーム波田の家(新宅)

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のその時々での身体的・精神的状況を把握し、その人のペースにあった1日がおくれるよう支援している。ホームの1日の流れが優先ではなく、その人に応じた臨機応変な対応に心がけている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>いつも通っていた美容院がある方は、継続してその美容院を利用したりしている。身だしなみに関しては、清潔感が保てるように配慮している。また、その人その人に合わせたおしゃれが楽しめるよう援助している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者にとって食事が楽しいものになるよう、畑を作っている時期は一緒に収穫をしたり、随時、利用者の要望を聞き、メニュー作りをしたりしている。また、利用者それぞれの「出来る事・出来ない事・好きな事・嫌いな事」を把握した上で、自主性を重んじて、職員と共に食事の準備や片付けを行っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>疾患があるような特別な場合を除いて、日常的に楽しめる程度に本人の嗜好を満たすよう配慮している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>その人その人の排泄パターンを把握し、必要な方に対しては、タイミングを図りトイレ誘導をしている。出来る限りオムツの使用を減らしていくことを目標としている。</p>		

グループホーム波田の家(新宅)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応設定しているが、必要な時は入浴できるような体制にはなっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。また、利用者一人ひとりの生活パターン(睡眠パターン)を把握し、十分な睡眠が取れるよう配慮している。時にはフロアーの和室(コタツ)やソファで休んだり等、その人の過ごしたい場所で居れるように見守っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のそれぞれの生活歴や性格・好きなことなどを把握し、それぞれの自主性を重んじている。食事作りや雑巾作り、干し柿作りなど、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作るよう心がけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては、(金銭管理が可能な方に対しては)お金を自分で持って管理していらっしゃる方もいる。また、そのお金を使って買い物に行く場合もある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩はもちろんのこと、その人の馴染みの場所への外出の支援もしている。また、ホーム内の行事で定期的に外にでかけることはもちろんの事、本人の希望に応じて買い物に出かけたりできるよう援助している。		

グループホーム波田の家(新宅)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の意見を聞きながら、ホームの行事予定を立てて外出する事も多い。(温泉・外食・花見等)また、時には家族にも協力してもらい、本人が希望する場所に連れていってもらうこともある。(墓参り・法要など)		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、耳の遠い方の場合、間に立って援助したりもしている。手紙も、やり取りができるよう支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者に馴染みのある人々が、気軽に来所できるような雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が守られる権利に対しては契約書にも記載しており(身体拘束の禁止についても記載しており)、職員も行わないようにしている。「介護保険法指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」については、職員間のミーティングでも示し、共通認識としている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はできるだけ鍵をかけないように心がけている。夜間は職員1人で対応していることもあり、安全確保のため施錠している。		

グループホーム波田の家(新宅)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりのプライバシーに配慮しながら対処している。職員は利用者と同じ空間で記録などを行いながら、さりげなく利用者の状態を把握するように努めている。夜間は、数時間毎に利用者の状態を把握するようにしており、利用者の安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	それぞれの利用者の状態(理解度)によって、何を危険とみなすのかを考え対処している。人によっては、裁縫道具(中にはさみがある)を持っておられる方もいるし、逆にその人によって危険と考えられるものに関しては、お預かりして保管する場合もある。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	窒息時の対処法は、救急救命講習にて指導を受け尚且つ「緊急時マニュアル」にも載せて、いつでも職員がみれるようにしている。また、転倒・誤薬については、職員会議にて随時その予防について指導している。行方不明に関しては、運営推進会議でも議題にあげ、地域と共に考え、情報交換を行い、発生予防に努めている。火災予防に関しては、消火・避難訓練も定期的の実施している。また、日々のヒヤリハットを記録したり、事故が発生した場合には、事故報告書を記載してもらい、事故原因を追究し、事故予防対策(発生予防)に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	2年に1回、消防署の方に来ていただき、救急救命講習を行ってもらい、スタッフ全員が受講するようにしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は昼・夜を想定した「消火・避難訓練」を利用者も交えて実施している。また、運営会議では地域の方を交えて「防災」に関する話し合いも行っている。		
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	まず、入居前に、利用者の身体的・精神的状態を把握し、その方に起こりうるリスクについて家族に説明した上で入居してもらっている。また、このリスク予防に関しては、介護計画の中にも反映させ、職員間の共通認識とし、利用者の変化の早期発見に役立てている。		

グループホーム波田の家(新宅)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>一人ひとりのリスクを職員が把握した上で、毎日の利用者の身体的・精神的状況を把握するように努めている。そして、何か変化があれば、看護師に報告し、早急に対処するシステムになっている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>病院からもらっている薬の説明書は、その人のファイルに保管して、いつでも職員が見れる(確認できる)所においている。</p>	<p>何を飲んでいるかはおおまかに理解できていると思うが、副作用についてはまだ十分理解しているとは言えないと考える。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>薬だけに頼るのではなく、水分・運動・食物繊維をとりながら、便秘を予防していけるよう努めている。便秘気味の方には牛乳を飲んでいただいたりし、かなりの利用者の便秘が軽減した。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、全ての利用者に対し、歯磨きや入れ歯の洗浄を促し(声かけを行い)、その利用者の出来る力に応じて見守ったり介助したりしている。口臭のある人には、それに加えデンタルリンスを使用したり、舌のケアも(歯科医師の指導のもと)行っている。また、年に数回、歯科衛生士の指導のもと、口腔ケアの勉強会を開催している。(主治医のいる歯科医院から来ていただく場合もあり、その場合利用者の状況を知っていただいているのでとても有効である)歯の治療が必要な方に対しては、歯科受診の支援もしている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食べる量や栄養バランスは、年に数回栄養士の方に来てもらい、献立のチェック等してもらっている。また、毎日の食事内容を記録し、利用者が食事を残した場合の量も記録している。水分は毎食時やおやつ時に提供し、どの程度水分摂取できているか、おおよその量を把握するようにしている。また、一人ひとりのその時の健康状態に応じて調理方法を変えたり、固いものが苦手な方には刻んで出すなど、その人に応じて臨機応変な食事を提供している。</p>	

グループホーム波田の家(新宅)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルに左記の内容については載せており、職員がすぐに見れる所に置き、理解しておくよう促している。また、ホーム自体が清潔をモットーにしており、掃除も徹底的に行っている。また、利用者は全員インフルエンザの接種にご協力いただいている。その他、感染予防対策としてペーパータオルを使用している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品(まな板等)は、毎食後消毒しており、食中毒の予防に努めている。また、食材に関しても新鮮な肉や卵を使用し、野菜や果物等も季節に応じた新鮮な食材を使用するようにしている。夏には畑を作り、採り立てのものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には駐車場を設置し、開放的なイメージとなっている。ホーム内外には、季節の植物を飾るようにしており、明るい雰囲気作りに心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室(一部を除く)や居間は南向きに配置しており、自然な明るさを維持している。照明や音量等は時間帯に応じて注意して対応している。また、ホーム内には季節の花を飾るように心がけている。居間や居室の窓からは、景色が見え、夏は畑を作るので、その成長を楽しみながら暮らしていけるメリットがある。また、茶碗を洗う音・御飯の炊ける匂い・菖蒲湯・豆まき・クリスマスの飾りつけ・正月料理など、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓だけではなく、マッサージ器やソファがあったり、和室にはコタツがある。また、廊下にはベンチが設置されているなど、それぞれの利用者が思い思いの場所で自由に過ごせるような環境になっている。		

グループホーム波田の家(新宅)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベット・小物などは、本人が使い慣れたもの(馴染みのあるもの)を持ち込んでもらっており、本人が入居前の家で暮らしていた雰囲気を大切に、安心して暮らしていけるよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内の換気は定期的に行っており、臭いや空気がよどまないように徹底している。外気との温度差がある時は、温度計と利用者の様子を見ながら調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・階段・お風呂などには安全バーを設置しており、自立した生活を安全に行っていけるよう配慮している。玄関先や居室のベランダ先にはスロープを設置しており、階段を使用できない人でも自力で歩けるようになっている。また、本人の活動性を維持するために、押し車や車椅子等を臨機応変に使用している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人その人の理解度を含めた状態を把握し、その利用者の有する能力を最大限に発揮できるような介護(自立に向けての介護)に努めている。利用者にとって何がわかりにくいのかを把握して、その状況に応じて環境整備をしている。(部屋がわかりにくい利用者に対しては、ネームプレートに加え大きな目印をつける等の工夫)		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室からベランダには自由に出入りできるようになっており、窓を眺め景色を楽しんだり、外の空気を吸ったり出来るようになっている。また、ベランダ先はスロープになっており、自由に外に出られるようになっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

グループホーム波田の家(新宅)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホーム波田の家(新宅)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホーム内は常に清潔に保つように、掃除は徹底して行っている。

また、親切・丁寧をモットーにしており、家庭的で明るい雰囲気になるよう、職員全員が心がけている。

食事は全て手作りで、夏には畑を作り、利用者と共に収穫の喜びを味わいながら新鮮な食物を食べるようにしている。

季節の行事を大切に、また時には外出もし、利用者が生き生きと暮らしていけるよう工夫している。

運営推進会議では、あらゆる方向から議題を選出し、地域を交えてお互いに学びあえる場となるよう努力している。